

風の萌

特定非営利活動法人(NPO)
在宅ケアを支える診療所・
市民全国ネットワーク機関紙

第041号

2018年4月10日

安心して子育てができ 老いても障がいがあっても 自分らしく暮らすことができる コミュニティーの創造

みんなで創る Osaka 大会

今年は『第24回 全国の集い in Osaka 2018』が行われます。

～ 挑戦！ やるき ほんき げんき Osaka ～ をスローガンに掲げ、9月23-24日に大阪国際交流センターに於いて開催されます。

◇大会長を拝命して

2016年8月、ネットワークの理事会で、「2018年の全国の集いを大阪で行う、大会長は岡崎和佳子」のご指名を頂戴いたしました。これまで全国大会は、著名な、またその地域で大変実力のある理事の方が大会長をされて来られました。当ネットワークは「在宅ケアを支える診療所・全国ネットワーク」として1995年に発足、東京で第1回の全国大会が開催されました。設立当初より、「他職種協同」を掲げ、全国大会では、医師のみならず看護師、介護職、事務職、福祉職、市民も交えて実践発表交流会も重ねてきました。診療所ネットワークなので、当然医師が中心であるはず・・・にもかかわらず、医師でもない、著名でもない、実力もない、おまけにお金もない私を大会長に任命した事は、現在の「NPO 在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク」の懐の深さに他ならないと思います。

◇すてきな仲間たち

私は大阪で、みんなで、「医療・介護・保健従事者が元気になる会」を2013年から立ち上げ、「大会長」の事も、相談していました。この仲間達が「一緒にやろう！」と言ってくれたからこそ、今の私があります。公開講座でまじめに勉強会をする一方、会員家族も含めたバーベキュー大会を開催、まさに「元気になる会」です。

昨年、ネットワークの近畿地区の会員のみな様のお力もいただきながら、実行委員会を重ねてきました。これまでの準備段階から実行委員会でも、新たな仲間が増え、大きな力となっています。(秘密にしたかったのですが) 実は、〇〇保険証が手元に届き出来ない事が、ますます増えている私です。私の出来ない事をサポートし、支えてくださっている Osaka 大会の実行委員、このすてきな仲間たちと、「大会長」の重責をしっかり務めたいと思います。



有限会社菜の花
岡崎和佳子



◇やるき・ほんき・げんき Osaka !

人口減少による、超高齢・少子社会はもう目の前に迫っています。地域包括ケアシステムで本当に医療と介護の連携はできているのでしょうか・・・。医療や介護を受ける方の体験は、実際いかがでしょうか？医療や介護の受け手、担い手も含めて、どこにもし寄せが来ないで、笑顔でお互い過ごしたいものです。

ゆたかにならない暮らしの中で、いらだちや憂さ晴らしの対象がより弱いものへ行きがちです。真の地域共生社会をめざして、人権についても振り返ってみましょう。差別のない豊かな明日は、違いを認め、助け合う社会です。また、在宅医療を担う医師がヘトヘトではだめで、医師にも人権があり、働き手全員に人権があります。

Osaka 大会では、これまで出会ったことがない人と出会い、意見交換をし、違いを認め、より大きなネットワークができる事を目指します。

ともに生きる、ともに暮らす、めっちゃええ明日に向かって挑戦します！

全国の会員のみな様、何とぞご支援のほどよろしくお願ひ申し上げます。

優秀賞

2014 岡山大大会

豊かな看取りの支援を目指して
～連携を強みにした支援の実践～

山下 寛治

医療法人社団温新会 居宅介護支援事業所コンスウェル

「花みずきの家生き生き
わくわく活動」について

阿部 日向子

医療法人社団 いでした内科・神経内科クリニック医療法人社団温新会 居宅介護支援事業所コンスウェル

メディア・セラピーの試み
～ライブレビューによるチームケア3rdセッション～

松浦 佳野

介護保険サービス事業所 たらど

「食べたい!」「飲みたい!」「帰りたい!」
～経口摂取完全移行による、在宅復帰への道のり～

久野 治美

特定医療法人フェニックス 老人保健施設サンパレーかかみ野

残薬確認の呼びかけと
その成果について

廣 梓

有限会社あんのメディカル おごおり薬局長

互助から生まれる支え合いの自立支援へ
ICF の視点から自助と互助の可能性を探る

飯島 恵子

NPO法人 ゆいの里

あなたは「自立支援」をどうとらえていますか
～「自立支援」の実態、イメージ調査」をおこなって～

田中 大造

医療法人社団温新会 居宅介護支援事業所コンスウェル

豊かな看取りの支援を目指して ～連携を強みにした
支援の実践～地域に根ざした施設

大道 洋平

医療法人みどりグループ リハビリセンター大村

地域医療における多職種共同の理想形とは
～メカニカルドックを目指して～

大澤 邦章

特定医療法人フェニックス 鶴沼中央クリニック

実践交流会 優秀賞

年度も改まり、次の全国大会が動き出しました。皆様も実践交流会に向けて準備を進めている事と思います。来たる次の大阪大会に向けて過去の優秀賞・フォローアップ対象をまとめて掲載いたします。

2015 北海道大会

「帰りたい」という思いに
向き合うこと

佐藤 大輔

医療法人社団 都会渡辺西賀茂診療所 ショートステイにしがも

業務改善活動の
効果について

中村 豪志

医療法人社団 いでした内科・神経内科クリニック

施設における下剤の使用状況と
薬剤師の関わり

箱崎 麻美

友愛薬局 小金原店

「彩の国連携力育成プロジェクト」に
施設側ファシリテーターとして参加して
～無垢な学生のうちから同じ目線が多職種連携を～

齋木 実

医療法人社団 満寿会鶴ヶ島在宅医療診療所

地域を支える在宅栄養管理の
実践にむけて

水野 敏江

医療法人あいち診療会 あいち診療所 のなみ訪問看護ステーション

市民が取り組む
リスクマネジメント評価活動

寺田 美恵子

生活協同組合 パルシステム東京

特養入所者の自宅での看取り
太田 伸一

社会福祉法人 山陵会 特別養護老人ホーム フラワーホーム

地域の健康寿命を支える
診療所の看護外来

中堀 千賀子

医療法人あいち診療会あいち診療所野並

重度独居者の在宅生活を支えるユニット型特養の
ショートステイの事例
～ご本人と家族の希望の実現に向かって～

森田 絵美

社会福祉法人秦ダイヤライフ福祉会 特別養護老人ホーム絆の広場



フォローアップ推薦演題 一覧

どのような活動が目目されたか、どのようなフォローが希望されたか改めて見直す事で皆様の実践交流会に対する活動のヒントになるべく、ご参考にして頂ければ幸いです。



2016 鹿児島大会

ひとり娘の遠距離介護

大竹 功剛

社会福祉法人 山陵会 特別養護老人ホーム フラワーホーム

老老介護を支えるヘルパーの役割
～夫婦二人でいつまでも暮らしたい～

吉水 あけみ

社会福祉法人 緋徳会 訪問介護事業所 みどりの園

緩和ケアとしての口腔管理～医科歯科協働に
よるがん末期 13 症例の経験を通して～

三木 次郎

三木歯科医院

人財力から組織力へ、組織力から地域力へ。～新たな多
職種協働に向けたプロフェッショナル育成を目指して～

吉田 理

特定医療法人 フェニックス

地域との関わり方
「小規模だからできること」

上原 悠矢

社会福祉法人 山陵会 特別養護老人ホーム フラワーホーム

イキイキとした食生活のために
～楽しい、美味しい、嬉しいの刺激～

池崎 輝美

社会福祉法人 緋徳会 介護老人福祉施設 みどりの園

診療所が委託された
地域包括支援センター

中島 麻衣子

医療法人 あづま会 高齢者相談センター 東

熊本地震における在宅療養支援診療所としての取り組み
—在宅救護避難の受け入れ方—

林 より子

医療法人 坂梨ハート会 さかなしハートクリニック

重小児在宅医療の実践

菅谷 優美

友愛薬局小倉本店

2017 はちのへ大会

高齢者本人の望む最後が
叶えられるために

深田 知洋江

特定非営利活動法人 ゆうらいふ ゆうらいふ 在宅介護支援事業所

高齢者をトラブルから守れ！
ヘルパーの気づきと防止策

木村 理恵

医療法人社団 都会 ホームヘルプステーション ひまわり

住民の主体的地域づくりを支援する
～地域共生社会実現へ向けた新潟市山潟圏域
(中学校区) での看護小規模多機能の新たな取り組み

斎藤 忠雄

斎藤内科クリニック

「彩の国連携力育成プロジェクト」に
施設側ファシリテーターとして参加して
～無垢な学生のうちから同じ目線の多職種連携を～

齋木 実

医療法人社団 満寿会 鶴ヶ島在宅医療診療所

認知症を発症した利用者の思いを
傾聴する試みからの気づき

江川 萌美

特定非営利活動法人 ゆうらいふ ぐるーぷほーむ花梨

歯科から「口のサポーター」を目指して

佐藤 雄大

医療法人 雄志会 スクエア歯科

地域連携で本人が満足できる
地域包括ケアのあり方について
～帰郷を希望しているケースを通して～

灰瀬 美和

医療法人 坂梨ハート会 さかなしハートクリニック在宅医療部

特養併設の外来専用診療所の開設

中山 雅徳

社会福祉法人 山陵会 特別養護老人ホーム フラワーホーム

インスリン注射の過量投与を防ぐ支援ツール
当社製「インスリンオーバードーズ防止用
単位ストッパー」をお使いいただいて

田中 巳恵子

うおめま調剤グループ

すべての人がサポーターになる日まで

寺口 こずえ

障がい者日中活動施設 利用者

フォローアップ推薦

2014 岡山大会

グループホームを看取りの場へ

林 光政

社会福祉法人幸済会 高齢者グループホーム かわしまの里

介護保険改正による通所サービスへの影響を見据えた今後の取り組み

伊藤 京香

特定医療法人 フェニックス デイサービス Com.Do2

短時間型のリハビリ特化型通所サービスの傾向

吉川 宗佑

医療法人社団 青藍会 あんの循環器内科デイケア

一最期まで在宅で寄り添うために

松久 宗丙

医療法人社団 崇仁会船戸クリニック 在宅リハビリセンター 天音の里

一ライフレビューによるチームケア 3rd セッション一

松浦 佳野

介護保険サービス事業所 たらど

アロマセラピーの応用～在宅緩和ケアから認知症ケアまで～

膳 澄美

医療法人 あづま会 大井戸診療所 訪問看護

水分摂取量の増加への取り組み

宇佐川 由美

社会福祉法人 青藍会 ハートハウス白石脳活性リハビリ

問題解決型から目標指向型への視点の転換により BPSD は軽減した事例について

志水 達彦

医療法人 あすか 短期入所生活介護 ショートステイみどりい

家族指導とチームアプローチ ～『口から食べる』を管理する～

野津 清

医療法人 あいち診療会

～経口摂取完全移行による、在宅復帰への道のり～

久野 治美

特定医療法人フェニックス 老人保健施設サンパレーかかみ野

多職種からみた服薬状況の実態 ～より良い服薬支援をめざして～

斎木 和仁

うおめま調剤グループ 服薬支援プロジェクトチーム

個々の視点に合わせた包括的プログラムによる支援

重信 麻子

NPO 法人 日本総合リハビリリスト協会

在宅医療に携わる言語聴覚士の必要性とその可能性

大竹 功剛

医療法人 あいち診療会 あいち診療所野並リハビリテーション科

虐待共通通報番号 113 に関する台湾視察

和田 忠志

医療法人社団 実幸会 いらはら診療所

運動補助具を使用した当院における職員の腰痛予防の取り組み

藤木 康孝

医療法人 孝生会 津森医院 リハビリテーション科

地域医療連携支援システムの利用実態とその課題

北山 撰

医療法人社団 プラタナス 桜新町アーバンクリニック

2015 北海道大会

メディア・セラピーの試み～その人らしさを支えるケアを目指して～

門田 美穂

介護保険サービス 事業所 たらど

(ケアミックス) 病院でのリハビリ連携の再考～生活期リハを見据えて～

山本 純也

社会医療法人 仁生会 細木病院 リハビリテーション課 在宅部

施設における下剤の使用状況と薬剤師の関わり

箱崎 麻美

友愛薬局 小金原店

～20代の挑戦と成長を通して得た学び、そしてこれから～

柳沢 江美子

大和会グループ 社会福祉法人 秦ダイヤライフ福祉会 特別養護老人ホーム あざみの里

地域を支える在宅栄養管理の実践にむけて

水野 敏江

医療法人あいち診療会 あいち診療所 のなみ訪問看護ステーション

浅草地域多職種連携 “緩和ケア啓発活動におけるケアマネージャーの現況と認識”

西澤 文恵

ケアマネジメントセンターあさくさ

事例から見えてくる地域力の現状と支援センターの関わり「地域包括ケアに向けて」

中居 江美

社会医療法人仁生会 細木病院在宅部 高知市北部地域高齢者支援センター 城西出張所

ご家族と共に生活リハビリを実践して

佐々木 郁恵

医療法人あすか 昆沙門クリニック 通所リハビリテーション野の花

2016 鹿児島大会

在宅医療における日中および夜間の往診頻度に寄与する要因の分析

吉村 和也

株式会社メディヴァ

「隠居長屋ろんち」での茶の間活動

瀬戸口 司

社会福祉法人 山陵会 特別養護老人ホーム フラワーホーム

ヨーガと笑いヨーガの効果について

松田 真奈美

医療法人社団 いでした内科・神経内科クリニック

軽度利用者の課題に対する取り組み・実践例～デスタッフの汗と涙の対応の軌跡～

和田 康一

デイサービスセンター おらんくの縁側

すべての人に居場所と出番をつくる～通所サービスのさらなる進化を求めて～

伊藤 京香

特定医療法人フェニックス デイサービス Com.Do2

入居者と家族をつなぐ支援

吉澤 あずみ

医療法人あづま会 グループホームおおいど

～人材確保プロジェクト・時代にふさわしく意識を変えよう～

佐藤 祐紀

社会福祉法人 野の花会 アルテンハイム鹿児島

出逢いと“つながり”をデザインする！～全員参加型の人材戦略～

上園 卓哉

社会福祉法人第一会

特養ユニットでの調理 ー入居者と共に歩みたいー

藤田 美香

社会福祉法人野の花会

農業デイサービスとしての取り組みについて

石津 公基

有限会社あんのメディカル ハートホーム小郡 脳活性リハビリ

運動後 30 分以内の BCAA 補給による効果

古川 慎太郎

社会福祉法人 野の花会 老人保健施設 ラポール吉井

地域交流が生む地域の安心安全～地域貢献活動を通して～

植村 貴子

社会福祉法人紘徳会 介護老人福祉施設 みどりの園

トータル支援パスで思いをつなぐ

黒瀬 義央

社会福祉法人 野の花会 介護老人福祉施設 アルテンハイム加世田

～ドライブサロン実践報告～

原田 俊樹

鹿屋長寿園

～在宅復帰率からみたフェニックスグループの取り組み～

左高 裕隆

特定医療法人フェニックス フェニックス総合クリニック

外国人留学生の施設での就労と苦勞～感動と共感を共に～

大見 まゆみ

生活介護サービス株式会社 介護付有料老人ホーム ユーカリ小金原

在宅患者に対する QOL(Quality of Life) 評価の試み

野村 秀樹

医療法人あいち診療会 あいち診療所野並

残薬整理によるアドヒアランス向上の事例

赤池 剛

鹿児島県薬剤師会 地域医療委員会

2017 はちのへ大会

社福での保険外地域貢献事業「みぞべ元気塾」

榊 弘樹

社会福祉法人 山陵会 特別養護老人ホーム フラワーホーム

「在宅」希望に寄り添う

山口 幸人

社会福祉法人同伸会瑞光園ホームヘルパーステーション

「ゴミ屋敷からの脱出・お金は何処に？」～家族と一緒に暮らすことを支えるために～

山下 和美

有限会社 菜の花 菜の花ヘルパーステーション

多職種連携によるスピリチュアルケアへの取り組み

久保 夏海

医療法人 仁泉会 訪問看護ステーションえがおみょう

退院後フォローアップシステム構築に向けた取り組み

階上 弘樹

メディカルコート八戸西病院

私の話し聞いてえな！ふみふみカルタ～引き出せたみんなの笑顔

埴岡 加代子

グループホームめぐみ2

特養ユニットでの調理 ～今、私たちができること～

藤田 美香

社会福祉法人 山陵会 特別養護老人ホーム フラワーホーム

「行政との共働で地域を共創する」～法人内ケア会議から地域ケア会議への発信～

高 美智代

特定医療法人 フェニックス

居宅介護支援課におけるリスクマネジメントへの取り組み (SHELL 分析手法を用いて)

竹田 靖子

医療法人あづま会 居宅介護支援課 ケアマネジメントセンターおおいど

明日のケアを変える 介護記録のアイデア

飯田 友一

株式会社ブライトヴィー

ICT ツール導入後の当薬局の在宅対応の変化

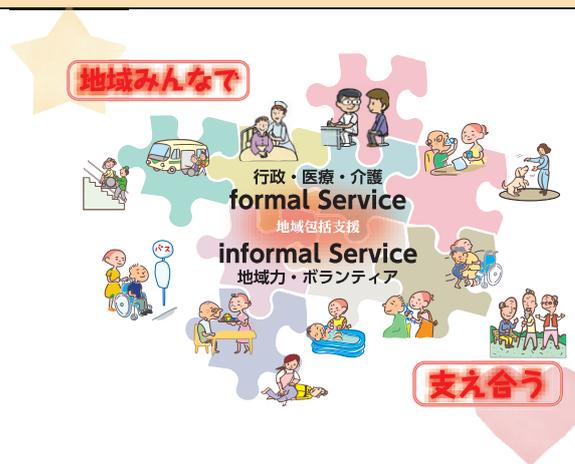
根本 昌幸

株式会社アインファーマシーズ アイン薬局 八戸店

脳死状態にある重症障がい児への訪問看護～家族の思いに寄りそう～

斉藤 里美

八戸市医師会訪問看護ステーション



私の こだわり

私の危機管理 — 迷った時には損する方を選び



李 利彦
宏彩会 李クリニック 院長
(大阪府松原市)

大阪の松原市で開業して、あっという間に二十数年が経ちました。当初、お金もなく、銀行から借りるにも色々ハードルがあり、困りはてて一時は開業は無理かなと思っていた時もありました。そんな時、親類の叔父から援助を受けることができ、開業計画がやっと具体的に進むこととなりました。しかしその叔父は、貧しい生活から一代で財をなした人だったので、事業についての考え方は大変厳しい人で、「普通の商売なら、色々自分で失敗しては、そこから学んでいくが、お前はその失敗する力もない。そのことをよく理解しておきなさい」と教えられ、確かに失敗して再度立ち上がるにもそれなりの裏付けがないと、そう簡単に失敗もできないはずだと納得し、失敗できないのだとの思いを強くしました。

そのような思いの中、ちょっとした失敗を色々繰り返しながら、如何に大きな失敗しないようにするのか、僕なりに悟ったことがあります。それは、「判断に迷った時は、損する方を選ぶ」、しんどい方を自ら選ぶことということです。

これはどういうことかと言いますと、僕も欲深い人間なので、何か物事をおこなう時には、金銭的なことだけでなく、いろんな意味でどうしても損得勘定が働いてしまいがちです。明らかに大きな損を被ることは引き受けられませんが、損か得

か五分五分のように思える時は、人はどうしても得な方を選びやすいものだと思います。そんなギリギリのところで迷った時に、往々にして判断を間違え、大きな失敗をしてしまうのではないかと思います。だから、そんな時には、どちらかという自分が損をする、自分がしんどい思いをする方のできる限り選び、相手に楽な方を選んでもらうようにすることが大切だと思うようになりました。なんかえらくかっこの良いことを言っているように思われるかもしれませんが、これにはふたつの良い効果があります。ひとつは、自分の我を少しは抑えることができ、うまい話に騙されにくくなること。もうひとつは、周囲の人の協力が得やすくなるという効果で、これがけっこう大切で、結果的に自分の身も守ってもらっているのではないかと思います。大して得することはなくても、大失敗は防げるのではないのでしょうか。

人の思いを知ることはなかなか困難で、自分の方が相手に対して一步譲っているつもりでも、相手から見たらまだまだ欲張りに映るのが世の常、精一杯譲ったつもりぐらいで丁度いい加減ではないのでしょうか。在宅医療や地域医療の実践は、自分以外の人たちの様々な協力があってはじめて可能です。お互い、少し損するつもりで譲り合えば、より心地よい地域医療が行えるのではないかともし、自分に対する戒めの意味を込めて、これからも、「迷った時には損する方を選ぶ」よう心がけていこうと思っています。



李クリニック
〒580-0032 松原市天美東 7-2-27 第3太橋ビル1階
TEL 072-330-4663 FAX 072-330-4661

脳リハセンター天美
〒580-0032 松原市天美東 7-1-7
TEL 072-330-0333 FAX 072-330-0339

リレー寄稿

前回の鹿児島県・楠元からのバトンは鹿児島県霧島市溝辺町の徳永正義さんに渡されました。私共は「社会福祉法人山陵会」は、特別養護老人ホームを創設以来、施設の社会化を基本に入所者様の幸せに立脚した運営を方針とし、また三者の喜び（利用者様の喜び・働く職員の喜び・地域へ貢献できる喜び）を念頭に利用者様のケア向上に努めております。当施設では見学など随時受け付けております、お気軽にお問合せ下さい。



「地域包括ケア…鹿児島県霧島市溝辺町の社会福祉法人の取り組み」 —鹿児島県—

在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク
徳永 正義（社会福祉法人山陵会）



溝辺町は鹿児島県の中央部に位置する中山間地で東に霧島連峰、南に桜島が眺望できる十三塚原の台地にあり、昭和44年に鹿児島空港が作られた。溝辺町の高齢化率は28.4%であるが、町内でも地域により9.1%から63.0%と格差が顕著である。当法人は昭和56年に地域密着型の診療所を母体に設立し、特養フラワーホームを開園した。診療所では戦後間もなくから在宅看取りを積極的にやっていたが、特養では開設当初より地域の高齢者を受け入れ、施設内看取りに力を注いできた。最近18年間で、死亡退所者302名の91.4%は施設内見取りであった。その中で17名は最期を家族とともに自宅で看取ってきた。（平成27年：太田）。また、BPSD・せん妄など入院に問題を抱えた高齢者の短期入所での看取りも積極的に取り組んでいる。（平成26年：穂森）。

一方、在宅介護は特養での通所介護、訪問介護、小規模多機能ホーム、地域密着型小規模デイサービスなどで介護レベルに応じた地域高齢者へのサービスを工夫している。特に小規模多機能ホームでは地域高齢者と連携して介護するとともにホーム内看取りにも取り組んでいる。（平成28年：野崎、上原）さらに、平成22年には国交省のモデル事業として長屋形式の高齢者住宅を作り、入居者と地域高齢者の交流を行っている。毎週土曜日、地域高齢者（自立、要支援、要介護を含む）に集ってもらい、一緒にサツマイモやソバなどを栽培し、収穫したものを使い、地域に伝わる料理について話し合い、一緒に調理して皆で食べるというような集いを8年間続けてきた。（平成28年：瀬戸口）また、地域の自治公民館活動に参



加して「認知症・介護予防講座」と題して、医師による講演会と職員による運動活動を実施してきた。このような地域活動をさらに発展させるため、平成29年5月からは特養の近所にある空き豪邸を利用して「みぞべ元気塾」を始めた。そこでは、毎日20人以上の高齢者が集まり、認知症予防・介護予防のための活動をしている。参加者の殆どは独居で自立した生活を送っている。認知機能検査、骨密度検査、体脂肪検査、体組成検査、歩行速度などの運動能力測定など、一人一人の心身機能を評価し運動プログラムを作成する。さらに、高齢者の講師を招き、認知症予防レクリエーション活動、科学実験、脳科学、筋肉・骨の鍛え方など様々な主題での学習活動とマットやマシンでのトレーニングと屋外歩行訓練をしている。経営的には苦

しいが、多くの元気な地域高齢者が集い、笑いの絶えない時間を過ごしていることはこれからの地域包括ケアを考えるうえで意味のあることと考える。（平成29年：榊）

地域医療活動の一環として、社福で外来専用診療所を開設した。そこでは、在宅療養支援診療所として24時間365日の対応で訪問診療をしている。精神科医療の経験から、認知症やうつ病、さらに慢性疾患の高齢者と十分な時間をかけて面接する全人的医療を実践している。高齢者医療には介護との連携が必須であり、同一法人内の職員などと一体的に多職種連携の取り組みができる。（平成29年：中山）

カッコ内は全国大会の実践交流会報告

次回はアミリークリニックネリヤ院長 徳田英弘先生に
お願いする事になっています。（徳永正義）

理事会報告

第三回理事会

開催日時：2018年3月4日（日） 9:10～12:00

開催場所：貸会議室プラザ八重洲北口 3階6号室

出席理事：石田 一美、苛原 実、大石 佳能子、大澤 誠、岡崎 和佳子、小倉 和也、桑原 由次、多湖 光宗、畑 恒土、福田 善晴、藤村 淳子、村山 善紀、吉永 隆行、中嶋 久矩（監事）（敬称略）

欠席理事：青木 佳之、秋山 由美子、大川 延也、太田 秀樹、沖倉 紅児、金井 秀樹、金田 弘子、黒岩 卓夫、小山 亨、長 純一、中嶋 啓子、長縄 伸幸、西嶋 公子、新田 國夫、萩田 均司、三嶋 泰之、宮坂 圭一、森本 益雄（敬称略）

大阪大会の実践交流会担当理事が決まりました。（敬称略）

①在宅生活の継続	小倉 和也	⑥口腔ケアと栄養管理	大川 延也
②訪問サービス&通所サービス	福田 善晴	⑦これからの地域包括ケア	長 純一
③緩和ケアと看取り	三嶋 泰之	⑧新しい試み	吉永 隆行
④人材育成・教育	桑原 由次	⑨薬と生活	金井 秀樹
⑤地域で支える認知症ケア	村山 善紀		

第24回全国の集いin Osaka 201 第3回実行委員会

1月27日、PLP会館にて第3回大阪大会の実行委員会が行われました。

○プレ大会報告 2018年1月19日 NEWYEARPARTYinMISONO2018にて、大阪大会が
目指すもの について30分間講演しました。

○プレ大会開催予定 2018年6月10日 大阪大会
2018年8月25日 東京大会

○各8部門からの進捗報告
次回開催 2018年3月24日

活動予定

<p>平成30年8月2日 場所…東京 大阪プレ大会 (東京大会)</p>	<p>平成30年8月2日 場所…東京 第五回理事会</p>	<p>平成30年6月中旬 場所…大阪 大阪プレ大会 (大阪地域医療ケア研究会)</p>	<p>平成30年5月2日 場所…東京 第四回理事会</p>
--	---------------------------------------	---	---------------------------------------

第25回全国の集い in 東京 2019 第3回準備会開催

平成30年2月17日、東京大会の準備会が開催されました。
テーマについて

- ①みんなの在宅ケア これまでの25年、これからの25年
- ②在宅ケア 全員が自己ベスト
～東京2020オリンピック・パラリンピックへの布石～
- ③頑張る在宅ケア、頑張らない在宅ケア
～普段どおり、いつもどおり～
- ④みんなでつくる地域包括ケア
～地域共生社会をめざして～

次回準備会日程 平成30年4月21日

風の萌

2018年4月10日発行(第041号)

頒 価：1部50円 会員は無料

- ◆ 発行 特定非営利活動法人(NPO)
在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク
TEL:052-848-8800 FAX:052-848-8801
<http://www.home-care.ne.jp/net/> E-mail:zenkokonet@home-care.ne.jp
〒458-0049 愛知県名古屋市天白区福池2-330-2 あいち診療所野並内

◆ 編集「風の萌」編集委員

∞∞∞編集後記∞∞∞

風の萌41号です。遅くなりました事をお詫び申し上げます。

随分と暖かくなり、もうしばらくすると全国大会も本格的に動き出します。

実践交流会も宜しく願います。

(東京事務局/犬童)